

科目名	社会福祉演習Ⅳ P					単位	2.0
担当教員	渡邊 幸良						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	4	授業番号	3255

●授業のテーマ

社会福祉の本質理解と、各自の研究テーマをまとめる

●到達目標

社会福祉の原典資料から社会福祉の本質を理解する。そして、具体的研究課題として設定したテーマをまとめてゆく。(PBL)

●学習内容(授業概要)

社会福祉の本質に関わるテーマについて避けることができない重要な文献を読みながら、各論者がどのようにそのテーマに応えようとしてきたのかを解きほぐすことにする。

それは、近年の社会福祉はめまぐるしく変化しているからこそ、社会福祉の本質的な課題が改めて問い直されているからである。したがって、前期は資料の輪読と討論が中心となり、後期は学生たちの問題関心に即した報告と討論が中心となる。

このように、社会福祉の本質の理解を深めるとともに、学生各自の研究テーマに沿った研究を深めてゆき、各自の研究テーマの発表と、ゼミの中で討論によって、各自の研究力を育ててゆく。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. 個人の研究テーマの確定
2. アドボカシーに関する特別委員会「アドボケイトとしてのソーシャルワーカー —社会的犠牲の擁護者」
3. ソロモン『ブラック・エンパワーメント —抑圧された社会におけるソーシャルワーク』
4. ピンダーヒューズ「自分のクライアントと自分自身へのエンパワメント」
5. ハーセンフェルド「ソーシャルワーク実践におけるパワー」
6. サイモン「エンパワメント再考」
7. ハートマン「専門職的なことは政治的である」
8. ジャーメイン=ギッターマン『ソーシャルワーク実践のライフモデル』
9. ジャーメイン=ギッターマン『ソーシャルワーク実践のライフモデル』（第2版）
10. ディーン「構成主義 —臨床的実践へのアプローチ」
11. サレエベイ「文化、理論、ナラティブ」
12. アンダーソン=グリーシャン「クライアントこそ専門家である —セラピーにおける無知のアプローチ」
13. サレエベイ「序論 —人々がもつパワー」
14. サレエベイ「序論 —人々がもつパワー」（第3版）
15. 振り返りと卒業後に向けて

●準備学習・事後学習の内容

毎回の授業のテーマごとに、自分の意見をまとめておく。授業後は、個人もしくはチームのテーマについて調べる。

●成績評価方法・基準

グループワーク 50%、報告・討論 50%

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：『資料で読み解く社会福祉』、著者名：岩崎晋也 他、出版社：有斐閣、販売先：Yショップ同朋学園店、備考：3年次で使用したテキストを継続して使用

●参考文献／その他

授業時に指示。

●履修上の注意

見学や合宿なども行う予定です。